

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300408		
法人名	株式会社 ノエル		
事業所名	グループホーム ノエル本店		
所在地	埼玉県本庄市小島1-1-34		
自己評価作成日	平成27年1月20日	評価結果市町村受理日	平成28年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年2月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ADLが低下している中でも、利用者の方々が楽しいと思える時間をできるだけ多くするために、行事の計画を職員で話し合い決めています。また元気な利用者の方は外出支援に力を入れています。職員同士が常に意見交換や相談のしやすい環境であり、その中で行事計画などの案も話し合います。ホーム内も季節を感じられる飾りつけを利用者の方と一緒に手作りし写真を撮り、会話をする時の話題作りをしています。口から食べる事の大切さは特に力を入れています。そのため食事に関しては、季節ごとの行事、祝い膳など一人ひとりが、安全に美味しく食べられるよう常に工夫しています。生活のなかでは「人が人らしく」という理念のもとに、利用者の方に接するように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「人が人らしく」の理念が食事、外出、イベント企画などのサービスの随所に活かされ、利用者は明るく楽しい生活を送られている。また、管理者は事業所独自の「健康クラブ」を立ち上げるなど、職員の健康や仕事以外の絆を深めることにも取り組まれ、職員のフレッシュと利用者へのサービスの向上につなげられている。  
 ・ご家族のアンケートでも、「家庭的で個人を大切にしてくれている。清掃もきちんとしていて気分が良い」、「優しく忍耐強く接していただき、とても感謝しております。落ち着いた場所で日常生活に申し分ありません」などのコメントが寄せられ、個別支援と家庭的なケアに高い評価が得られている。  
 ・目標達成計画の達成状況については、地域住民が参加した消防避難訓練が実施され、様々な課題への意見・提案をいただき、防災対策が充実されたこと、また、外出支援では職員の工夫と企画で利用者の外出機会を増やすことができたことから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び職員は「人が人らしく」という運営理念を共有しケアに努めています。	利用者の喜怒哀楽を受けとめ、その思いを大切にし、共感する介護が実践されている。「人が人らしく」の理念は、職員も同じと捉え、職員同士がお互いを思いやる気持ちを大切にしながら関わりを持たれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭、研修会などを通じて地域の皆様との交流を図っています。	事業所の納涼祭は恒例となり、日頃の感謝の気持ちを表し、子供も含めた多くの地域住民の参加をいただき利用者のことを知っていただくよう取り組まれている。また、地域の救命救急の研修に参加するなど相互交流も図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社員勉強会を地域にオープンにしており、近隣住民の方にも興味深い血圧や、糖尿病などのテーマで行い、まず来て頂くことで認知症の方の理解につなげています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご家族をはじめ、自治会長や市の介護課の職員等からの貴重な意見を運営に反映できるよう努めています。	運営推進会議の開催日を利用し、地域住民も一緒に参加した避難訓練が実施され、参加者からは貴重な意見・提案が出され、運営にも反映されている。また、会議には職員が交替で参加し、事業所の取り組みを理解いただけるよう報告がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市介護課とは、空き状況や事故報告、運営推進会議など良好な協力関係を築けていると思います。	市担当者からは、介護情勢の近況報告や大雪等災害時の安否確認のお話など、良好な関係が築かれている。また、市役所のポインセチアの見学、「はにぼんプラザ」に出かけて、お茶やおやつを楽しむなど、公共の施設を活用されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関の施錠はしていません。転倒、転落の危険がある場合のベッド4点柵はご家族の許可を頂き行っています。	「自傷」される利用者には、職員が工夫したカーデガンを作ってもらえるなど、安易に拘束に頼らないケアに取り組まれている。「自分の親だったら」を常に意識し、理念の考えに照らしながら、会議や研修での指導が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については防止を徹底すると共に、虐待に関する研修への参加や資料配布を継続していきたいと考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等、権利擁護に関する研修への参加やスタッフへの資料配布を継続していきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、丁寧に解りやすい言葉で、ご家族に説明し理解、同意をえています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見聴取の他、当ホーム玄関への意見箱の設置を行い、運営に反映できるよう努めています。	「NOELletter」やフェイスブックなどで、家族に生活の様子をお知らせし、要望や苦情などには素早い対応がとられている。利用者からの「美味しいものが食べたい」などへの要望は、毎日の食事の工夫、外食や出前などに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事や援助方針等、スタッフの意見を踏まえ意思決定するよう努めています。	職員が交替で運営推進会議に参加することで、自分の考えなどを発言する習慣が出来、サービスの向上につながられている。「空室が出たので、どう対応しようか」など、事業所の運営に関することも皆で意見を出し合いながら取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場環境の向上を考えており、且つ計画的に実行しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会及び勉強会の費用負担等、事業所として各職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	書類の整備等の情報交換を行い、同業者とも良好な関係を築く努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や心配な事が何かを聞き取り、ゆっくり話を聞き安心できる関係になれるよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が要望を言える関係づくりを心がけ、サービスに対する質疑、相談にも丁寧に対応するよう心掛けています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご本人の状況に応じ、他のサービス利用も併せて希望される場合は、出来る限り対応させていただいています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係ではなく、共に生活をしているという視点を持ち、コミュニケーションを図っています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への定期的な連絡の他、家族の負担を考慮しながら、家族のパートナーとして本人を支える姿勢を大切にしています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方等が来訪の際には、ご本人の居室でゆっくりお茶を召し上げられるよう支援しています。	利用者個々に、会いたい人や行きたい場所の把握に努め、電話や手紙の取次ぎなどを通して、馴染みの関係が継続できるよう努められている。友人の来所時には居室でゆっくりしていただき、写真を撮影して残すなどの配慮がなされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的なコミュニケーションが図れるように努めるとともに、行事等を通して関わりが持てるよう支援しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者ご家族に経過について伺ったり、入院されている場合はお見舞いに行ったり関係を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を出来る限り汲み取る努力をしています。	発語が難しい利用者も放っておくことなく、声をかけ、表情や食欲などの様子を見て意向の把握に努め、職員間で共有するよう取り組まれている。意思表示を遠慮される利用者とは散歩時や居室で二人だけで話すなどの工夫も図られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には、紹介先担当者から情報を伺ったりご家族に生活歴について話を伺うなどしています。また、ご本人との会話の中で馴染みの物などを把握できるよう努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアスタッフは一人ひとりの生活の状況を記録やミーティング等を通し、情報共有に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議などで一人ひとりの現状について職員が共有し意見を出し合ったり、主治医、看護師などからの意見を反映した介護計画を作成しています。	日常の様子を記した「施設介護支援経過」から支援のポイントをまとめ、「人が人らしく」の理念が活かされた介護計画が作成されている。プラン内容については職員間で確認し、具体的なケアの実践につなげられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、夜間日誌、看護日誌、歯科連絡票などを職員が共有し、日々の介護や介護計画に反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況やニーズに合わせ、柔軟なケアサービスを提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で活用できる地域資源の情報をいただき、参加していきたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入院などの際は特にご家族の希望を尊重し、医療機関を選んでいただいています。	日常的には協力医療機関の往診により健康管理が行われ、看護職員から家族や職員に医療情報が伝えられている。希望のかかりつけ医を選択いただき、受診時には、付き添いの家族に日頃の状況が伝えられ、受診結果も報告されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームの看護師とは常に連絡が取れる体制をつくり、疑問点などを相談できるようになっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師の協力のもと、入院先の医師と病院関係者との情報交換も含め、退院後も安心して生活できるよう連携を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期ケアに関しては、ご家族の意向を尊重し、主治医と相談しながら方針を決めています。	医師のアドバイスを受け、段階に応じて家族との話し合いが行われている。慣れたところで過ごさせてあげたいとの家族の思いなどが尊重され、事業所の方針ともすり合わせ、食事ができて、医療行為を常時必要としない間は支援に努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の方の重度化に伴い急変時には、まず何をするかを決めておき、全ての職員が焦らず対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議などでご近所協力のもと、夜間設定の消防訓練を行ったり災害について話し合うことで地域との協力体制作りをしています。	運営推進会議で消防避難訓練が実施され、夜間想定での避難誘導を実際にみていただき、協力体制作りへの話し合いが行われている。また、夜間の職員招集訓練も行い、集合時間が把握され、連絡網の見直しにも取り組まれている。	訓練の中で、地域住民から「我々は何を手伝うのか指示が欲しい」などの意見が出されていることから、お互いの役割分担を明確にし、それに基づいた訓練を重ね、習慣化が図れるように取り組まれることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の皆様への言葉かけは、自尊心を傷つけないよう、思いやりのある言葉を使うように心がけています。	「重度化しているからわからない」と考えず、排泄の言葉かけ、プライバシーの確保などに改めて指導が行われている。個人ファイルは厳重に保管され、シュレッダーを利用して処分するなど、個人情報の取り扱いには十分注意をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を感じ取ったり、なるべく自己決定できるように働きかけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数ということもあり、一人ひとりの生活リズムをなるべく尊重した暮らしができるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の起床時のモーニングケアや、その季節にあった服装など身だしなみについては日常的に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から一人ひとりの好みを見つけ、美味しく、またミキサー食も彩り良く一つの味を大切にしています。	献立から調理まで職員が行い、彩りよく工夫された食事は見た目でも美味しさも増し、薄味で健康管理にも配慮されている。外食、弁当やファーストフードのテイクアウト、焼肉パーティーなど、食べることが楽しめるような取り組みがなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録、管理し適切な摂取量を確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの促しや週1回の訪問口腔ケアを利用し、口腔内の清潔保持を実践しています。また義歯の管理も清潔を保てるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りリハビリパンツを使用し、排泄パターンを把握する事で本人の負担もなくなるように支援しています。	夜間はオムツでも日中はトイレに行けるよう声をかけ、トイレでの排泄を基本に支援が行われている。水分摂取量や食事量などを把握し、自然な排泄ができるよう配慮がなされ、それにより自立が保たれるよう努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者それぞれの排泄状況をチェック表に記入し水分摂取量の記入とあわせてスタッフは状況を共有し食事の工夫や主治医への相談等を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間はコミュニケーションをとる良い機会であると考え、入浴剤の他ゆず湯やしょうぶ湯なども楽しんでいただき、個々のペースに配慮しながら支援を行っています。	「ゆっくり入りたい」など、それぞれのペースで入浴することができ、職員と1対1でじっくり会話を楽しまれたり、楽しく入浴できるよう支援が行われている。室温管理でヒートショック対策を行うなど、安全面への配慮にも取り組まれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりにあった安眠や休息がとれるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師より副作用や服薬方法について、いつでも相談できる体制を整え、どのような服薬をしているか職員一同が理解できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事やレクリエーション等、楽しみながらリハビリをしたり洗濯物をたたんでいただくなど、役割分担をしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ADLの低下で全員での外出は出来ませんが、行事の中にも外出を多くしたり、天気の良い時は個別に散歩に行ったり買い物に行くなど外出の機会を増やしています。	外出の機会を増やすことをサービス目標に掲げ、車椅子でも外出できるよう個別の外出支援に取り組まれている。日常の散歩のほか、高崎観音や高速道路のサービスエリア、レストランでの食事、花見など様々な企画で支援がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者それぞれの認知症の症状に応じて、自分のお金を使用できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があった場合はできるだけ電話をし話ができるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節に応じた飾りなどを、職員が考えレクリエーションの時間などを利用し手作りしています。季節感や暖かみのある共用空間になっていると思います。	利用者と職員と一緒に手作りした季節ごとの飾り付けは、クォリティーが高く、大人の雰囲気のある共用空間作りがなされている。写真付きの職員紹介、日めくりカレンダーなどにより、生活感・季節感を感じていただけるよう配慮も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士やスタッフと気軽にコミュニケーションをとれる空間づくりを心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的にプライベートな空間なので、ご本人の好きな物等を置いて落ち着いて、安心して過ごせるようにしています。	利用者や家族の思いを取り入れた居室作りがなされ、時計やラジオ、家族写真など思い思いのものが自由に持ち込まれている。加湿器のほかカーテンに霧吹きをして乾燥対策を行うなど、居心地良く過ごされるよう支援がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置、バリアフリーなど安全面に配慮した環境づくりに努めています。		

(別紙4(2))

事業所名:グループホーム ノエル本庄

## 目標達成計画

作成日:平成 28年 4月 2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	○災害対策	繰り返しの訓練での職員の意識の向上。 地域住民との協力体制の強化。	現状の災害対策の維持と消防設備の点検を継続し繰り返し訓練を行い、職員の災害に対する意識の向上を図る。また、地域住民への協力を積極的に呼びかけ夜間などの協力体制を強化していく。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。